

校名：福岡教育大学附属小倉中学校

所在地：〒802-0023 福岡県北九州市小倉北区下富野3丁目12番1号 電話番号：093-541-8621

記載日：平成28年5月20日 記載者： 記載者役職：

1. 本校の教育目標

教育目標

「創造的実践人の育成」

- 1 科学的精神を育てる
- 2 素直な心を育てる
- 3 困難に打ち克つ逞しさを育てる
- 4 身体を鍛える

教育方針・経営方針

- 1 学生の教育実習と教育活動の実践研究に努める。
- 2 地域社会の教育活動の活性化に貢献する。
- 3 教育研究情報の収集を行う。
- 4 教育者として互いに磨き合う。

目指す生徒像

「豊かな心を持ち、高い志を抱く、知・徳・体の調和のとれた生徒」

- 1 自主的に学びに向かう生徒（賢さ）
- 2 誠実・素直・謙虚で礼儀正しい生徒（豊かさ）
- 3 心身共に健康で将来への志を抱く生徒（逞しさ）

目指す教師像

「生徒の将来を切り拓く教師」

- 1 信頼ある教師
保護者や地域に信頼され、教育の使命と責任を果たす教師
- 2 実践する教師
生徒の志をはぐくみ、深い教育愛で生徒を成長させる教師
- 3 研修する教師
生徒の人生を高めるため、主体的に研究と修養に励む教師

目指す学校像

「行きたい学校・行かせたい学校・学びたい学校」

- 1 学業と友情の喜びを実感できる学校
- 2 学力・人間力・体力を豊かにできる学校
- 3 教師が互いを尊重し学び合える学校

2. 本校の役割

本校は「1：中等普通教育を行う学校としての役割」、「2：教育研究校としての役割」、「3：教育実習校としての役割」、「4：大学附属学校としての役割」、「5：教職員の研修校としての役割」という5つの役割を有している。これら5つを相互に関連させつつ、その役割を十分に発揮することが本校の使命である。

1：中等普通教育を行う学校としての役割

○「本校の教育目標」、「本年度の学校経営要綱」をもとに、教育計画を作成し、確実に実施することにより、本校教育の質的充実を図る。

《附中3大行事》

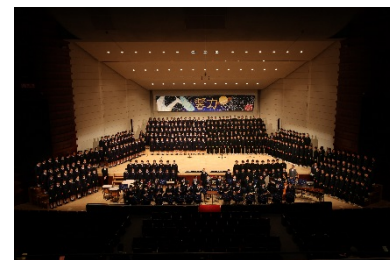
行事の中でも特に附中三大行事とよばれる「体育大会」、「文化祭」、「合唱祭」に全校生徒が主体的に関わっているのが本校の特色である。生徒自らが行事を企画、運営し、創り上げていくこの三大行事は、人間関係能力を磨くばかりでなく、卒業後も長く語り継がれるほど思い出に残るものであり、附属小倉中学校を代表する行事です。



熱戦が繰り広げられる体育大会



創意工夫が見られる文化祭



歌声が響きあう合唱祭

2：教育研究校としての役割

- 全国的な視野に立って、教育研究の情報収集・情報提供を行う。
- これからの教育のあり方を研究し、その成果を地域へ発信する。
- 効率化した研究推進を行い、地域の教育研究推進モデルとする。
- ☆本校が伝統的に実施している教育研究

『附属小倉中学校伝統の道徳教育研究』

『附属小倉中学校単独の学校研究』

『大学と三附属中学校との共同研究』

3：教育実習校としての役割

- 福岡教育大学の教育実習及び同大学院の実習を実施する。

☆本校が受け持つ教育実習・実習

- ・福岡教育大学学生の教員養成のための教育実習
- ・本校卒業生からの依頼による教員養成のための教育実習
- ・福岡教育大学大学院生のカリキュラム充実のための実習

4：大学附属学校としての役割

- 校長職一本化にともなう小中連携を推進する。
- 大学が推進する「中期目標・中期計画」を確実に実行する。
- 大学や他附属小中学校が主催する行事への協力・参加を行う。
- 業務の見直しや分業化の促進等により勤務時間の適正化を図る。

5：教職員の研修校としての役割

- 全職員による長期派遣研修員への指導を充実させる。
- 効果的で機能的な校内研究体制を確立する。
- 日常的なOJTにより教職員としての資質力量を向上させる。

3. 特色あるカリキュラム

本校のカリキュラムは、学校教育目標である「創造的実践人の育成」を具現化するための教育実践研究に大きな特色がある。具体的には三つの教育実践研究に力を入れている。その一つ目は、「自己調整学習」に基づいた循環的な学習プロセスの構築を手立てとした、教科学習指導法の研究である。二つ目は、キャリア形成を柱とした総合的な学習の時間の実践研究である。三つ目は、価値の自覚を深める道徳の実践研究である。

一つ目の「自己調整学習」に基づいた循環的な学習プロセスの構築とは、教師が「予見」「遂行コントロール」「自己省察」の3段階の学習プロセスを仕組み、生徒が、学習の過程と結果を自身で評価し、次の学習において自ら学び方を工夫したり、意欲を持って学習に取り組んだりして、知識や技能を高めていけるようにしていくことである。このような力を育むことで、今、求められている確かな学力を育むと同時に、本校の教育目標である、「創造的実践人の育成」をめざしている。

二つ目のキャリア形成をめざす総合的な学習の実践とは、勤労観・職業観を育むためにカリキュラムを改編して実践している総合的な学習の時間のことである。本校では、総合的な学習の時間で育むべき力とキャリアを形成する諸能力とを関連させ、継続的に実践しているところに特色がある。目標をキャリア諸能力の育成とし、学習内容は「福祉」「生き方」「一人一研究」とし、学習方法は、学びの対象を全体的に俯瞰することから矛盾点を自ら発見、設定し、解決していく課題解決型学習である。このようにして、学び方を学ぶだけに留まらず生き方を考える学習へ、同時にキャリア諸能力を育成する学習へと高まるようにしている。

三つ目の価値の自覚を深める道徳実践とは、「楽しい道徳の授業」として、本校に伝統的に引き継がれている道徳実践のことである。人間の自然性と道徳的価値とを綱引きさせたり、道徳的価値のよさに気づかせたりすることで道徳的価値の自覚を深めるところに特色がある。また、新資料の開発や指導法の研究にも努め、今までの実践をまとめた出版物も刊行しており、地域学校からの評価も高い。

4. 教育研究のあゆみ

昭和 45 年～52 年

福岡教育大学と本学，福岡，久留米の三附属中学校との共同研究会が発足「教科教育研究の理論とその実践」

昭和 53 年～57 年

「生徒がつくる計画活動の展開」「ゆとり活動ハンドブック」

昭和 58 年～平成 4 年

「楽しいアイデアのある道德の授業」「楽しい道德の授業」「楽しさをひろげる教科の授業」

「楽しい道德の授業 PART 2」製作・出版

平成 4 年～8 年

「楽しい道德の授業 PART 3」製作・出版

平成 8 年～10 年

教科・領域を横断する学習活動の工夫

平成 11 年～13 年

「小学校及び中学校における教育の連携を深める

教育課程の研究開発」文部科学省委嘱

平成 14 年

大学・三附属中学校研究発表会 研究紀要 13 号

平成 15 年

「子どもの学びを価値付ける学習指導法の研究」～吟味の過程を位置づけた授業展開を通して～

平成 16 年

「価値の多様化した現代を意識した楽しい道德の授業のあり方」～新資料の開発と活動の工夫を通して～

平成 17 年

大学・三附属中学校研究発表会 研究紀要 14 号

平成 18 年

「自己の生き方を追求する学びの創造」～キャリア形成を基盤とした教育課程の編成を通して～

平成 19 年～21 年

「新たな時代を創造的に切り拓く力を育む学習指導法の研究」～クリティカル・シンキングの原則・方略を活用した学習過程を通して～

平成 20 年

大学・三附属中学校研究発表会 研究紀要 14 号

平成 22 年

「『楽しい道德の授業』の創造」～資料のよさを引き出す授業づくりと「対話」を起こす「問い返し」の工夫を通して～

「楽しい道德の授業 PART 4」製作・出版

平成 23 年

大学・三附属中学校研究発表会 研究紀要 15 号

平成 24 年

「自ら創造的に学ぶ力の育成」～「自己調整学習」に基づいた循環的な学習プロセスの構築を通して～

平成 25 年

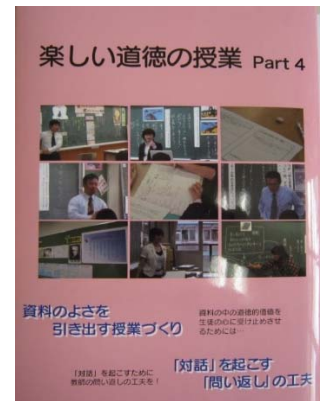
「『楽しい道德の授業』の創造」～魅力的な教材の開発と発問の工夫を通して～

平成 26 年

大学・三附属中学校研究発表会 研究紀要 17 号

平成 27 年

「『楽しい道德の授業』の創造」～「特別の教科 道德」（道徳科）の実施を見据えた「対話」を促す指導の工夫を通して～



本校が製作・出版した「楽しい道德の授業」シリーズ

5. 教育実習

本校の教育実習は、福岡教育大学の教育実習システムにしたがって実施し、毎年約100名の教育実習生・教職大学院生を受け入れている。教育実習生については、教育実習の行われる前年度(大学2年次)に、「観察参加」を実施する。これは、次年度の本実習に向けて取り組む心構えや授業を見る目を養うものである。本実習(大学3年次)は、中等教育教員養成課程の教育実習生を9月に3週間、生涯教育課程の教育実習を10月に2週間の期間で実施し、次代を担う若い教師を鍛えている。

6. 研究発表会や地域貢献

《研究発表会》

研究発表会は、これからの時代を生きていく子どもたちにとって必要な力を育む実践であり、地域教育界への提案でもある。本年度は、『「自ら創造的に学ぶ力の育成」～「自己調整学習」に基づいた循環的な学習プロセスの構築を通して～』の主題のもと、単元や題材の学習の遂行において、「自ら具体的な目標を設定できる」「どのように学習を進めればよいか考え、遂行できる」「遂行してきた学習の過程を振り返り、次の学習においてそれをふまえた目標設定、学習の遂行ができる」ような、「意欲」を持って学習を進めることができる生徒の育成方法を、地域の公立学校へ提案する(平成28年11月10日(金)に実施)。

《長期派遣研修》

長期派遣研修は、毎年、各教科、領域における「研修員」受け入れて1年間の研修を行い、研修終了後、地域のみドルリーダー教員として活躍できるよう、その育成を行っているものである。

☆本年度の長期派遣研修員の研究主題

社会科	合意形成の力を育む社会科学習指導法の研究 ～ランキングを活用した対話活動による公民的分野の学習を通して～
数学科	日常生活における事象を数理的に考察する力を育む数学科学習指導法の研究 ～再モデル化を誘発する振り返りを通して～
外国語科 (英語)	「伝える力」を養う外国語(英語)科学習指導法の研究 ～タスク・リピーションを取り入れた学習過程におけるスピーチノートの活用を通して～
保健体育科	課題解決力を育み、運動技能を高める保健体育科学習指導法の研究 ～「アクションシート」を活用した運動学習を通して～

《短期派遣研修》

短期派遣研修は、平成19年より、公立中学校の先生方と共に授業づくり研修会を行ってのものである。夏季休業期間に指導案作成など4回の研修を実施し、その成果を「短期研修発表会」として公開している。公開授業後の協議会では、多くの参観者の先生方と授業づくりについて意見交換を行い充実した学びとなるように継続的に実施している。

☆昨年度の短期派遣研修員の感想

- 授業の流し方や、様々な活動や手だて、見通しをもった単元計画等、教科に対する自分の考え方や視点がガラリと変わりました。生徒の意欲を引き出すとか、表現力をいかに高めるとか、悩んでいましたが、今回の研修を通じて、どう対応すればいいか学ぶことができました。(英語科研修員)
- これまでの道徳の授業を振り返ってみると、ねらいに近づけるために押しつけのような授業になっていたり、生徒の発言や対話を引き出せないなど、課題が山積みで、道徳に対して私自身とても苦手意識がありました。しかし、担当の先生方からご指導やアドバイスをいただくことで、これまで知らなかったことを教えて頂いたり、新たな発見があり、道徳に対する自分の考えが改まりました。(道徳研修員)

その他にも、福岡県や北九州市内の各学校の校内研修会・研究発表会において、本校の教員が「指導助言者」として参加し、各学校の研究成果の創出に貢献している。